

令和4年度 学校評価報告書(目標設定 実施結果)

Table with 9 columns: 視点, 4年間の目標(令和2年度策定), 1年間の目標, 取組の内容(具体的な方策, 評価の観点), 校内評価(達成状況, 課題・改善方策等), 学校関係者評価(3月24日実施), 総合評価(3月31日実施)(成果と課題, 改善方策等). Rows include '教育課程学習指導' and '生徒指導・支援'.

3	進路指導・支援	<p>①進路支援グループ、学年、部活動顧問等で連携し、3年間を見通しての計画的かつ最後まであきらめさせない進路指導を徹底する。</p> <p>②世界に目を向け、「最も困難な道に挑戦する」高い志を育成する取組みを推進する。</p>	<p>①生徒一人ひとりの状況を把握し、進路に主体的に取り組めるよう全職員が連携して進路指導を行う。</p> <p>②「Always do what you are afraid to do!」というスクールモットーを掲げ、生徒一人ひとりが高い目標を実現可能とする進路指導・支援を計画的に行う。</p>	<p>① ●新型コロナウィルスに柔軟に対応しつつ、学力向上のために、進路講演会などを企画実施する。 ●実力テスト後の分析を共有し、指導方針を明確に生徒に発信する。</p> <p>②入学から受験期まで、全職員が連携して「難関大学進学をあきらめない指導」を徹底する。</p>	<p>① ●生徒の分析を行い共有して、指導することができたか。 ●実力テスト後に分析し、各担任が進路指導に活用できたか。 ●生徒を観察し声をかけるなど積極的に支援することができたか。</p> <p>②集会、HR、進路通信等で湘南の進路指導を理解させ、進路意識を高めることができたか。</p>	<p>① ●実力テストのデータなどを分析し、進路グループで共有し、進路講演会や進路通信などを通じて、進路指導に生かすことができた。 ●学年会などで、進路グループの分析結果を各担任と共有し、面談などで活用した。 ●個別の生徒情報を教員間で共有して、生徒への声掛けを行った。</p> <p>②各学年で、時機を見た進路通信の発行を行い、生徒の状況に合わせて進路説明会や、進路講演会を計画し、実行できた。</p>	<p>① ●新学習指導要領の実施に伴い、共通テスト、各大学の入試が変わることを踏まえ、進路グループとして進路支援の在り方を検討する。 ●社会や生徒の変化を理解し、それを踏まえながら、湘南高校の在り方を大切にされた進路支援を行う。</p> <p>②各職員が情報収集に努め、また生徒についての情報交換を行い、社会の動向を踏まえ、生徒が広い視野で将来を考えることができるよう、情報発信を行う。</p>	<p>① ●生徒の多様な進路選択に対応するために、カリキュラムについて継続して検討してほしい。 ●年間行事予定にある「生徒アンケート（全学年）」や「進路講演会」などでのアンケートの結果を活用することで、より細やかな支援が可能になるのではないか。</p> <p>②大学受験に関することについて、生徒向けにも保護者向けにも更なる情報提供を検討してほしい。</p>	<p>① ●コロナ禍においても、行事、部活等の自分の選択したことに注力しながら、学業を疎かにせず取り組むという校風を維持するにとどまらず、強化できた。今後も生徒が安心して「最も困難な道に挑戦」できるように、今以上に生徒の状況を把握し支援していく体制整備が求められる。</p> <p>●新学習指導要領への移行による大学入試の変化についての情報収集に努めるとともに、基礎力をしっかり身に付けられる授業を実践していくことが必要である。</p> <p>②学校の進路支援の方針、新学習指導要領や大学入試の変化について、生徒、保護者に的確に情報発信する必要がある。</p>	<p>① ●生徒アンケートや入試結果などについて、校内での情報共有の機会を積極的に持ち、職員全体で生徒の進路希望の動向を把握し、より細やかな指導が実践できるようにする。</p> <p>●基礎力とは何か、また、基礎力を養うにはどうすればよいかについて、教科で検討し学校全体で実践する。</p> <p>②進路説明会や進路講演会を更に充実させる。また、進路通信がますます効果的なものになるよう、内容や発行時期について、吟味する。</p>
4	地域等との協働	<p>○地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりをめざす。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の拡大防止を踏まえた、地域貢献活動を行う。</p> <p>②地域からの理解が深まるよう情報発信を行う。</p>	<p>①各行事における地域交流の方法について検討する。</p> <p>②ホームページの内容を一層充実させる。</p>	<p>①地域交流や地域に貢献する活動ができたか。</p> <p>②学校の取組を地域に発信できたか。</p>	<p>①地域清掃等、地域への貢献活動を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、以前と同様な活動の実施にまでは至らなかった。</p> <p>②生徒の活動等を地域に発信した。</p>	<p>①コロナ以前の取組を振り返り、地域や外部団体との交流を更に進める。</p> <p>②ホームページの更新を更に頻繁に行う。</p>	<p>① ●「小学生フェスティバル」は地域貢献の行事としても重要であり、継続と発展を期待する。 ●地域を代表する高校として、率先して地域交流を推進していただきたい。</p>	<p>①② 学校説明会、地域清掃等を予定どおり実施し、また、3年ぶりに実施した小学生フェスティバルを通じて、本校についてより広く、知っていただくことができた。入場者数の抑制の必要がなくなると更に良い。</p>	<p>① 説明会等において、できる限り多くの参加希望者を受け入れられるように、コロナの状況を踏まえながら、入場者数を判断していく。また、参加者の要望に答えられるよう、説明内容についても検討する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①教育公務員としての高い倫理観と同僚性を保持し、学校目標達成に向けて堅固に協力するとともに、事故・不祥事を起こさない職場環境の形成に向けて、職員一人ひとりが意識して行動する。</p> <p>②働き方改革を推進するために教員の意識改革を図る。</p>	<p>①職員一人ひとりが、事故・不祥事防止に向けて、当事者意識をもって取り組む。</p> <p>②一人ひとりが、働き方について意識改革を図る。</p>	<p>①報告・連絡・相談を円滑に行い、事故防止に努め、協力して学校目標の達成に向けて、各業務に取り組む。</p> <p>② ●学校閉庁日には休暇を取得するように努める。 ●打合せや会議文書作成の効率化を図り効率的な情報提供の定着に努める。</p>	<p>① ●財務事務調査結果が昨年度より改善したか。 ●事故・不祥事件数ゼロを達成したか。</p> <p>② ●一人ひとりの夏季休暇・年休等の取得日数が昨年度より増加したか。 ●会議の短時間化が図れたか。</p>	<p>① ●財務事務調査結果は昨年度より良好であった。 ●報告・連絡・相談を円滑に行い、事故防止に努めた結果、事故・不祥事件数0を達成した。</p> <p>② ●学校閉庁日は職員の意識に定着した。 ●Teams や校務用メールの活用により、打合せや会議文書作成の効率化ができた。会議回数減や短時間化に努め、資料のペーパーレス化を進め、環境負荷削減にも効果があった。</p>	<p>① ●会計処理については、今後も職員一人ひとりが意識して慎重に行っていく。 ●引き続き事故防止に努める。</p> <p>② ●一人ひとりの夏季休暇・年次休暇等の取得日数のより一層の増加を促す。 ●より一層の会議の回数減、短時間化に努め、業務の効率化を図る。</p>	<p>① 令和3年度に引き続いての「事故・不祥事件数ゼロ」達成は素晴らしい。今後も「事故・不祥事件数ゼロ」を継続するためには「件数ゼロ」の要因が何であるかを確認することも重要である。</p> <p>② ●評価目標として具体的な数値目標を掲げて効率化に取り組むことを期待する。 ●業務改善の結果、職員のライフワークバランスの向上につながることを期待する。</p>	<p>① 不祥事防止に努める視点を忘れず、学校教育目標の実現に向けて、各グループや学年が業務に取り組んだ結果、引き続き事故・不祥事件数ゼロを達成できた。しかしながら、ヒヤリハット事例はあるため、引き続き意識改善に努める。</p> <p>② 依然として業務量は多いが、無駄を省き、業務の効率化を推進する場面が見られることは評価できる。うまくいっていない部分については、業務改善を進め、引き続き職員のワークライフバランスの実現、環境負荷削減につなげたい。</p>	<p>① 不祥事防止研修会等でヒヤリハット事例の共有等を積極的に行い、「重要な作業では複数人で複数回の点検を行う」等の共通認識を組織内に浸透させ、引き続き「事故・不祥事件数ゼロ」の実現に努める。</p> <p>② 職場のコミュニケーションを更に円滑にし、見通しを持った業務計画、振り返りを行い、業務改善を推進する。</p>